

企画展 丸沼芸術の森所蔵 ベン・シャーン展

平成 27 年 4 月 25 日（土）～ 7 月 5 日（日）

1 展覧会名

丸沼芸術の森所蔵 ベン・シャーン展

2 主催 丸沼芸術の森、茨城県近代美術館

後援 水戸市、朝日新聞水戸総局、茨城新聞社、株式会社茨城放送、NHK水戸放送局、
（予定）産経新聞社水戸支局、東京新聞水戸支局、日本経済新聞水戸支局、毎日新聞水戸支局、
読売新聞水戸支局

3 会期

平成 27 年 4 月 25 日（土）～ 7 月 5 日（日） 62 日間

休館日：毎週月曜日 ただし 5 月 4 日（月）は開館、5 月 7 日（木）は休館

開館時間：午前 9 時 30 分～午後 5 時（入場は午後 4 時 30 分まで）

4 観覧料

一般 1,080（980）円／高大生 850（720）円／小中生 480（360）円

※（ ）内は 20 名以上の団体料金

※満 70 歳以上の方、障害者手帳等をご持参の方、高校生以下（土曜日のみ）無料

5 展覧会概要

リトアニアに生まれ、アメリカに移住し活躍したベン・シャーン（1898-1969）は、一貫して人種差別や迫害、貧困などのテーマに取り組み、震える線と力強い構成力による絵画や壁画、グラフィックデザインを数多く残した。初期にはセザンヌやルオーらフランス美術に影響を受けた象徴性の強い絵画を制作し、30 歳を過ぎた頃からは、19 世紀に冤罪事件の被害者となったユダヤ人のドレフュス大尉や、アメリカで無実の罪を着せられたイタリア系移民のサッコとヴァンゼッティらを主題に、社会批判精神旺盛な作品を数多く手がけた。また、アメリカ大恐慌への対策として採られたニューディール政策に伴う FSA（農村安定局）の写真家として、そしてプライベートでも、膨大な写真を撮影しており、対象を鋭く切り取るその写真は近年再評価されている。晩年は第五福竜丸事件に取材した作品などを手がけ、日本とも深い関わりを結んだ。20 世紀を代表するアーティストであるシャーンの、現実世界への深いまなざしとあたたかなヒューマニズムに満ちた作品は、今なお多くの人々を魅了し続けている。

本展では、丸沼芸術の森が所蔵する、ドローイングを中心とし版画や水彩画、写真を含むベン・シャーンのコレクションを一堂に展覧する。丸沼コレクションには、初期から晩年までの作品が網羅されており、ドイツの詩人リルケの『マルテの手記』に基づく版画集や、アメリカ各地の公共施設に描かれた壁画の下絵なども含まれている。長年若手アーティストたちを支援してきた丸沼芸術の森が志をもって収集してきた希少な作品群により、シャーン芸術の尽きない魅力を紹介する。

【広報文 1】（約 50 字）

20 世紀アメリカを代表する画家ベン・シャーン（1898-1969）の個展。初期から晩年までを網羅した丸沼芸術の森のコレクションを一堂に展覧。

企画展プレスリリース「丸沼芸術の森所蔵 ベン・シャーン展」

【広報文2】(約100字)

20世紀アメリカを代表する画家ベン・シャーン(1898-1969)は、一貫して人種差別や迫害などのテーマに取り組み、震える線と力強い構成力による作品を多く残した。初期から晩年までを網羅した丸沼芸術の森のコレクションを一堂に展観。

【広報文3】(約200字)

20世紀アメリカを代表する画家ベン・シャーン(1898-1969)は、一貫して人種差別や迫害、貧困などのテーマに取り組み、震える線と力強い構成力による絵画やグラフィックデザインを数多く残した。第五福竜丸事件に取材した「ラッキードラゴン」シリーズや、ドイツの詩人リルケの『マルテの手記』に基づく版画集などの代表作などを含む、初期から晩年までを網羅した丸沼芸術の森の珠玉のコレクションを一堂に展観。

6 出品点数及び主な出品作品(予定)	出品点数約300点	◎=広報提供画像
・「エステラジー」(「ドレフュス事件シリーズ」より)	1931年	グワッシュ、紙
・「ジャージー・ホームステッズの壁画の習作」	1938年	テンペラ・鉛筆、紙
◎「我々は平和を望んでいる」	1946年	ポスター(オフセット)
・「出港」(「ラッキードラゴン・シリーズ」より)	1957年	インク、紙
◎「レーニン」	1964年	インク、紙
◎「ほんとうに偉大な人たちをわたしは忘れない」	1965年	水彩・セリグラフ、紙
・「ガンディーと『不思議な少年』」	1965年	コロタイプ、紙
◎版画集『一行の詩のためには…:リルケ「マルテの手記」より』		
「愛にみちた多くの夜の回想」	1968年	リトグラフ、紙

7 展覧会の見どころ

(1) 20世紀アメリカを代表する画家、ベン・シャーンの個展。

(2) 初期から晩年までを網羅した約300点を展示。

丸沼芸術の森が所蔵するベン・シャーンのコレクションは、初期から晩年までの画業を網羅した作品群です。ドローイングを中心に、水彩画、版画、壁画の下絵、写真などを含む優品約300点を展示します。

(3) メッセージ性の強い絵と、魅力的な線。

ベン・シャーンの絵は、社会や人間に対する画家のメッセージを力強く発信しています。とくに、『タイム』誌の表紙のために描かれた「レーニン」(1964年)に見られるように、そのかすれて震えるようにいながら力強い線は、観る者の心をつよく揺さぶる魅力をもっています。

(4) 装飾的な文字と絵とのコラボレーション。

13歳の時から石版画工房で働いたシャーンは、文字のデザインや、絵と文字の美しいレイアウトを得意としました。「ラブソネット・シリーズ」(1964年)など詩の言葉が描き込まれた挿絵や様々なポスターには、しばしばリズムカルで装飾的な文字が用いられ、絵との相乗効果を生んでいます。

(5) 差別への反発、正義や平等の信条。

故郷でユダヤ人として差別を受けた記憶をもっていたシャーンは、あらゆる差別や迫害を受ける人々に目を注ぎ、ドレフュス事件を扱った「エステラジー」(1931年)や労働者問題を描いた「トム・ムーニー・シリーズ」(1932年)のように、自身の正義の信条に基づき問題を世間へ訴える作品を制作しました。

企画展プレスリリース「丸沼芸術の森所蔵 ベン・シャーン展」

(6) 「ラッキードラゴン」シリーズと、人々の痛みに寄り添う表現。

代表作のひとつ「ラッキードラゴン」シリーズは、1954年に起きた第五福竜丸事件に取材しています。被爆して亡くなった船長の妻を描いた「彼の妻—久保山夫人」（1957年）などからは、事件より60年を経た今でも、原水爆の恐ろしさと、被害に遭った人々や遺族たちのつらさや悲しみが伝わってきます。

(7) 心に抱き続けた故郷の神話的世界。

アメリカのモダン文化のただ中で暮らしたシャーンですが、心の奥には故郷リトアニアの神話的な世界へ寄せる郷愁や愛着があったようです。本展では「伝道の手紙」（1966年）など、シャーンが晩年に多用したユダヤ教のモチーフ、とくにヘブライ文字を使い旧約聖書をテーマにした神秘的な作品群を紹介します。

(8) ニューヨークを中心に多く残る壁画の下絵が一堂に。

アメリカには、ルーズヴェルト大統領のニューディール政策のもと、当時の社会問題を描いたシャーンの壁画が多く残っています。壁画そのものは現地に行かないと見られませんが、本展では、ルーズヴェルト市の学校兼コミュニティセンターに描かれた、ユダヤ人服飾労働者のアメリカ移住をテーマにした「ジャージー・ホームステップスの壁画の習作」（1938年）など、壁画の貴重な下絵をご覧ください。

(9) シャーン晩年の傑作『『マルテの手記より』シリーズ』全点展示。

シャーン作品の中でも根強い人気をもつ、ドイツの詩人リルケの小説『マルテの手記』（1910年）に寄せた版画連作全24点を展示。この版画集は、シャーンが自身の死の前年1968年に制作した晩年の傑作です。最も知られた「愛に満ちた多くの夜の回想」など、シャーンの芸術の集大成を飾る絵と言葉が、観る人の心に響いてくるでしょう。

(10) いま、ベン・シャーンをみる大切さ。

世界で民族や宗教の対立、あるいは格差や貧困といった社会問題が顕在化する現在だからこそ、ベン・シャーンのメッセージに耳を傾ける意味があるのではないのでしょうか。様々な世代の方に本展をご覧ください。ただき、深く感じていただければ幸いです。

(11) 息子ジョナサン・シャーンの彫刻「父の肖像」（1966年頃）日本初公開。

8 企画展イベント

(1) オープニングイベント

日時：4月25日（土）9:10～11:30

会場：2階企画展示室前，1階レストラン

内容：9:10～ 2階企画展示室前にて，フルート演奏，テープカット

9:30～ 展覧会鑑賞

10:30～ 1階レストランにて，乾杯，ランチ

参加者募集：一般参加者50名募集（先着順）

申込方法：来館または往復はがきによる申し込み

特典：企画展チケット進呈，うち2名に図録進呈。レストランでの会費無料のランチ

(2) ベン・シャーンの足跡をたどる旅 in ニューヨーク

日時：5月2日（土）14:00開始

会場：2階企画展示室ほか

講師：永松左知（当館学芸員）

定員：250名（要企画展チケット，申込不要）

企画展プレスリリース「丸沼芸術の森所蔵 ベン・シャーン展」

(3) 丸沼芸術の森の作家によるワークショップ

日時：5月9日（土） 10:30～16:00

会場：2階企画展示室及び地階講座室

講師：山本靖久（武蔵野美術大学教授）

定員：40名（要企画展チケット）

内容：ベン・シャーン作品に関連のある平面作品の制作

申込方法：往復はがき

申込締切：4月25日（土）

(4) 美術講演会「共感・共振の画家～ベン・シャーンの人生をたどる不思議な旅～」

日時：5月23日（土）14:00 開始

会場：地階講堂

講師：永田浩三（ジャーナリスト、武蔵大学教授、昨年シャーン研究書を出版）

定員：250名（参加無料，申込不要）

(5) 学芸員によるギャラリートーク

日時：5月30日（土）14:00 開始

会場：2階企画展示室

定員：100名（要企画展チケット，申込不要）

(6) 特別ゲストによるギャラリートーク

日時：6月予定

会場：2階企画展示室ほか

講師：横尾忠則（美術家）

定員：250名（要企画展チケット，申込不要）

9 その他イベント

ミュージアムコンサート オリジナル楽器で聴く古典派名曲コンサート～弦楽三重奏から五重奏まで～

日時：5月6日（水・振休）13:15 開場 14:00 開演

会場：地階講堂

出演：ホフマイスター・クインテット

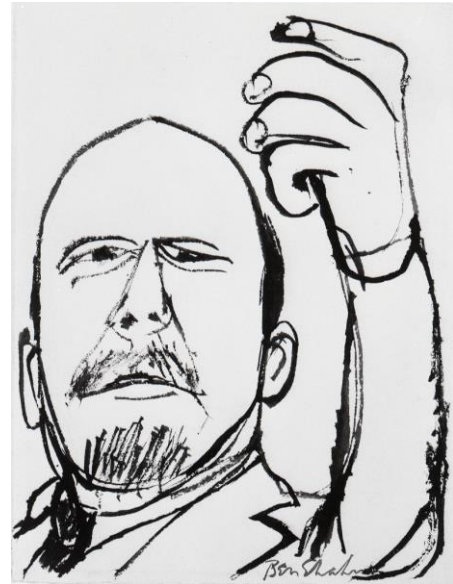
定員：250名（参加無料，申込不要，当日 11:00 から総合受付にて整理券配付）

企画展プレスリリース「丸沼芸術の森所蔵 ベン・シャーン展」作品紹介

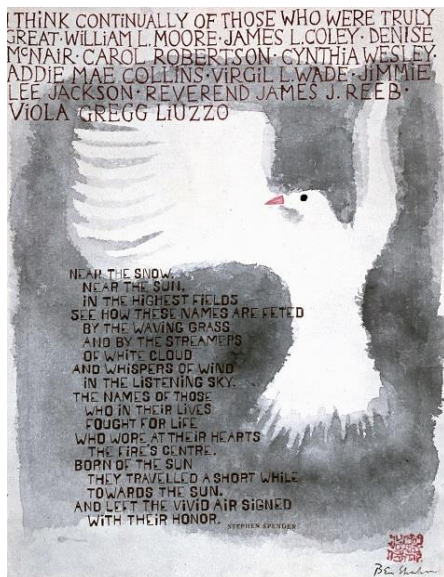
- ※1 本企画展の画像掲載には著作権者の許諾が必要ですので、掲載していただく際には必ず茨城県近代美術館にご連絡願います。また、画像使用の許諾は1作品1広報媒体1回の掲載ごとに必要ですので、ご注意願います。
- ※2 こちらに掲載された作品は、本展覧会の広報目的の場合にのみ転載可能です。
(印刷媒体のみ。400字以内の展覧会告知とともに掲載。大きさは50平方センチ未満。印刷媒体以外は別途協議)
- ※3 画像には、題名・制作年・指定クレジットを必ず入れてください。



「我々は平和を望んでいる」1946年
ポスター



「レーニン」1964年
インク



「ほんとうに偉大な人たちはわたしは忘れない」
1965年 水彩・セリグラフ



版画集『一行の詩のためには…：リルケ「マルテの手記」より』
「愛にみちた多くの夜の回想」1968年 リトグラフ

指定クレジット

©Estate of Ben Shahn / VAGA, New York & JASPAR, Tokyo, 2015